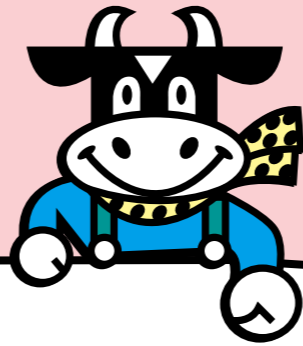




## ワンポイント・アドバイス



# 鉛の摂取にご注意

今年の6月に1ヵ月齢の子牛がぐるぐるまわる運動を繰り返すという事で往診したところ、体温43℃で頭を投げ出した状態で痙攣を起し、その直後に死亡しました。中毒を疑い家畜保健所に病性鑑定を依頼



縄の外観

したところ、胃から微小な鉛の塊が検出されました。原因は牛舎で使われていた1本のロープだと判明しました。そのロープは漁業用に使われている鉛の重りが編みこまれたものでした(写真参照)。



縄の断面写真(縄の中心に鉛の芯が含まれている)

### 鉛中毒

鉛中毒という単語に聞き覚えがある方は少ないと思います。しかし、鉛中毒は根室管内でも散発的に報告があり、海外では牛の中毒症の最も多い原因となっています。皆様の牧場にも鉛中毒の原因となりうるものが存在する場合があります。

### 原因

鉛中毒とは当然の事ながら鉛の摂取によっておきます。牛舎のまわり

に鉛を含んだものといつてもすぐには思いあたらないかもしれませんが、実際起こった症例の原因としては、牛舎のまわりに放置された廃油、廃バッテリー、建物や牧柵の塗料、今回とおなじ漁業用に使われている鉛が編みこまれたロープなどがあります。牛は興味を示したものを舐めたり、食べたりする習性がありますので、これらの原因物質が牛の行動範囲にあれば大変危険です。

### 一症状

若い牛でみられる急性型では鉛の摂取24〜48時間で発現し運動失調、巡回運動、流涎、筋肉の振戦、痙攣などがあります。高齢の牛でみられ

る慢性型では食欲減退、消瘦、便秘、腹痛などの消化器症状があり、しばしば盲目、運動失調、知覚過敏を続発することがあります。

### 一治療・予防

治療は解毒剤や第一胃切開での原因物質の除去などがあります。しかし、解毒剤は一般的な往診ではあまり使用しないもので、取り寄せるのに時間が要する場合があります。第一胃の切開での原因物質を探すのは原因物質が小さな場合などは困難です。

鉛中毒において最も重要なことは牛舎にある原因となりうる物質を認識し中毒を未然に予防することです。



す。原因物質に牛を近づけないように心がけてください。